

# 小象の「元気」マ行「ハツ」



## 生活習慣病防止へ！

### 市民と医療者の会



— (49) —

皆さん、脳ドックを受けたことはありますか？

健康で長生きしたいという意識の高まりや、周囲で元氣だった人が、脳卒中になったと聞いて、「自分は大丈夫か」と気になるなどのきっかけから、脳ドックを受ける人が増えていきます。多くの人は異常ありませんが、一部の人に、症状を起していない（無症候性）血管病変が見つかり、どう対応したらよいか悩んでいる方の話を耳にします。そこで、脳ドックで見つかるもののうち、よく見られる病変を解説しながら、その対処法を述べたいと思います。

皆さん、脳ドックを受けたことはありますか？

これらは無症候性脳血管病変には、今回述べる①未破裂脳動脈瘤（りゅう）と、次回述べる②脳小血管病の現れとされる無症候性脳梗塞、脳白質病変、微小出血が多いと思われれます。これらは無症候性ですが、そのまま放置すると、症候性脳血管障害（脳卒中）や認知症に発展することがあり、注意を要します。ほかに、比較的古い病変が見つかることもあります。

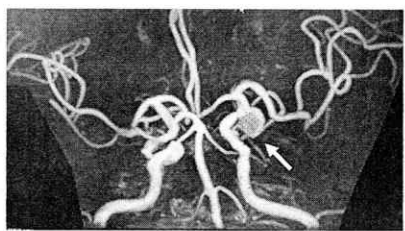
## 無症候性脳血管病変（その1）

# ドックで見つかる脳動脈瘤

膜下出血を起こします。破裂した時には約3分の1の患者が死亡するとされ、脳動脈瘤を見逃さないことが、脳ドック検査の一番の目的とも言えます。くも膜下出血の原因の約8割は脳動脈瘤です。頭部のけがなどでも起きます。脳動脈瘤を破裂する前に発見し

未破裂脳動脈瘤は、破裂しなくても膜下出血を起こしたり、まれにある周囲への圧迫症状を起したりしなければ、臨床的には無害です。したがって、発見された未破裂脳動脈瘤がどれほどの破裂の危険度を持つかの推測、そして破裂を予防するための処置

こう考えると、積極的に治療に踏み切るかどうかは、破裂のリスク、治療に伴うリスク、個人の人生観にかかわる部分が大いなのです。



MR血管撮影で見つかった未破裂動脈瘤（矢印）

治療すれば、くも膜下出血による不幸な転帰を多くの例で防げると考えられます。現在、わが国の脳ドックで未破裂脳動脈瘤の発見率は、受診者のおよそ2-5%と推定されます。発見率は、家族にても膜下出血をおこした人がある場合や、高齢者と女性で高くなる傾向があります。

経過中には、禁煙と高血圧の管理が必須です。脂質異常症に用いられるスタチン製剤に血管壁保護作用のあることが証明されています。それゆえ未破裂脳動脈瘤の増大と破裂予防への効果が期待され、大規模試験が進行中です。もし、薬剤で脳動脈瘤の増大や破裂が予防できれば、脳ドックによる小さな脳動脈瘤の発見は、将来のくも膜下出血の予防に、さらに大きな役割を果たすからです。

次回、脳ドックで見つかる、無症候性脳梗塞、脳白質病変、脳微小出血を紹介いたします。

（国際医療福祉大学市川病院院長 脳神経外科 佐伯直勝）